

CASIO®**5510 * JA****取扱説明書****5510**

このたびは、弊社製品をお買い上げくださりまして、誠にありがとうございます。
末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い
いただきますようお願い申し上げます。

本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本書に
記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。

なお、この説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

■ 本機の特長

- アナログ&デジタル時計
- ストップウォッチ
- マルチアラーム（3本）・時報
- タイマー
- デュアルタイム
- LED ライト（オートライト機能付き）

安全上のご注意

絵表示について 本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

 **危険** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 **警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は「気をつけるべきこと」(注意)を意味しています(左の例は感電注意)。



⊘記号は「してはいけないこと」(禁止)を意味しています(左の例は分解禁止)。



●記号は「しなければならないこと」(強制)を意味しています(左の例は電源プラグをコンセントから抜く)。



警告

スキューバダイビングには使用しないでください

本機をスキューバダイビングに使用しないでください。

- 本機はダイバーズウォッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。



電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

注意

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからさびが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとしび易くなります。

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

- ① 金属・皮革に対するアレルギー
 - ② 時計の本体およびバンドの汚れ・さび・汗等
 - ③ 体調不良等
- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
 - 「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
 - 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。



注意

分解しないでください

本機を分解しないでください。けがをしたり、本機が故障する原因となることがあります。



ご使用にあたって

時計表示の確認は、思わぬ転倒やけがの予防のため、十分に安全が確認された場所で行ってください。特に、道路でのマラソンやジョギング、自転車やバイク・自動車等の運転中は事故の原因になることがありますので、十分にご注意ください。また、第三者への接触による事故防止にも十分にご注意ください。

時計が止まった場合は、速やかに電池を交換してください。

時計着脱の際に、バンドの中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

思わぬけがやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のけがやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。



注意

ご使用にあたって

時計本体（裏ぶたを含む）やバンドに製品保護シールが付いている場合は、ご使用になる前に必ずはがしてください。シールをはがさずにご使用になると、「時計本体やバンド」と「シール」との隙間に汚れが付着し、さびやかぶれの原因となることがあります。

オートライト作動時のご使用について

オートライト作動状態のとき、本機を腕につけて自動車などを運転すると、不用意にライトが点灯し、運転の妨げになり危険ですとおやめください。交通事故の原因となることがあります。

目次

安全上のご注意	表紙裏面	デュアルタイムの使い方	25
操作のしくみと表示の見方	6	デュアルタイムのセット.....	25
液晶表示について	8	時刻・日付の合わせ方	27
操作音について	8	デジタル部の合わせ方.....	27
ライト点灯について	9	アナログ（針）部の合わせ方.....	30
ボタンを押して点灯させる ～手動点灯～.....	9		
時計を傾けて点灯させる			
～オートライト機能～.....	9		
ライト点灯時間の切替え.....	11		
ストップウォッチの使い方	12		
計測のしかた.....	13		
リコールモードについて	17		
保存されているレコードの確認.....	17		
レコードの消去.....	18		
タイマーの使い方	19		
タイマー方法について.....	19		
タイマー時間のセット.....	19		
タイマーの使い方.....	20		
アラーム・時報の使い方	21		
アラーム・時報について.....	21		
アラーム時刻のセット.....	21		
アラーム・時報の ON / OFF 設定.....	23		
		製品仕様.....	31
		ご使用上の注意.....	37
		お手入れについて.....	41
		電池交換について.....	42
		金属バンドの駒詰めについて.....	42

操作のしくみと表示の見方

◎ ボタンを押すごとに、以下の順でモードが切り替わります。

- リコールモード、アラームモード、ハンドセットモードのまま 2～3 分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。

時刻モード

時針 分針

①ボタン ②ボタン

③ボタン ④ボタン

液晶表示部

● 液晶表示部の見方

曜日 月 日

① ②

午後マーク (午前はA)

③ ④

時 分 秒

- ④ ボタンを押すごとに 12 時間制表示と 24 時間制表示が切り替わります。

ストップウォッチモード

1/100 秒単位で 99 時間 59 分 59 秒 99 (100 時間計) まで計測できます。

モード名 ————— メモリー

時・分・秒 —————

1/100秒 —————

◎

P-12

ハンドセットモード

アナログ針の時刻を合わせることができます。

モード名 —————

時・分・秒 —————

◎

P-30

- 本書の表示例では、アナログ部（針）を省略する場合があります。

リコールモード

ストップウォッチモードで計測／記憶したデータを確認できます。

計測をスタートした日



ログナンバー

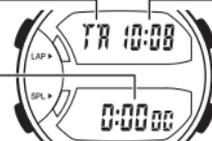
P-17

タイマーモード

1分単位で24時間までセットできます。
(減算計測は1秒単位)

モード名

現在時間



時・分・秒

P-19

デュアルタイムモード

時刻モードの時刻とは別に、海外時刻などもう1つの時刻をセットできます。

モード名

現在時刻



時・分・秒

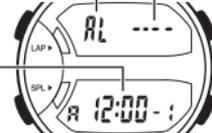
P-25

アラームモード

月・日指定ができるアラームが3本あります。
(アラーム1のみスヌーズアラーム切替え可)

モード名

月・日



時・分

P-21

液晶表示について

製品により液晶表示のタイプが異なります。

- 1つの製品でタイプを切り替えることはできません。

白地に黒



黒地に白



本書は「白地に黒」のタイプのイラストで説明します。

操作音について

モード切替え時などに鳴る操作音の ON / OFF を切り替えることができます。

● 操作音の ON / OFF 設定

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも

◎ ボタンを約3秒間押し続けます

ミュートマーク



→ 確認音が鳴り、操作音の ON / OFF が切り替わります。

- 操作音を OFF にしているときは、ミュートマークが点灯します。
- 操作音が OFF でも、アラーム音、時報音、タイマーのタイムアップ音は鳴ります。

ライト点灯について

セッ集中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、**ⓑ** ボタンを押すと、ライトが点灯します。また、時計を傾けるとライトが点灯するオートライト機能もあります。

■ ボタンを押して点灯させる

～手動点灯～

「セッ集中（表示点滅）」以外のどのモードのときでも

ⓑ ボタンを押します

- **ⓑ** ボタンを押すとライトが点灯します。
- 点灯時間は約 1.5 秒間と約 3 秒間のいずれかを選ぶことができます（11 ページ参照）。
 - オートライト OFF のときも **ⓑ** ボタンを押すと点灯します。



■ 時計を傾けて点灯させる

～オートライト機能～

どのモードのときでも、時計を傾けるだけでライトが約 1.5 秒間または約 3 秒間点灯します。

● オートライトの ON/OFF 設定

時刻モードのとき、**ⓑ** ボタンを約 3 秒間押し続けて、オートライト ON（オートライト ON マーク “LT” 点灯）にします。



オートライトONマーク

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

- オートライト ON のとき、時刻モードで **ⓑ** ボタンを約 3 秒間押し続けるとオートライト OFF（オートライト ON マーク “LT” 消灯）に戻ります。

● ライトを点灯させる

時計を腕にはめ、
水平にします

水平状態から、表示が見える
ように約 40° 傾けます



- オートライト機能を使用するときは、時計を「**手首の外側**」にくるようにつけてください。
- 文字板の左右（3時－9時方向）の角度を± 15° 以内にしておいてください。15° 以上傾いていると点灯しにくくなります。



■ ご注意 ■

- 直射日光下では、ライト点灯が見えにくくなります。
- ライト点灯中に操作音やアラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。

＜オートライトご使用時の注意＞

- オートライトが作動するのは、オートライト ON にしてから約 6 時間です。それ以降は電池消耗防止のため、自動的にオートライト OFF になります。
 - 引き続きオートライトを作動させたいときは、再度時刻モードで **ⓑ** ボタンを約 3 秒間押し続けてオートライト ON マークを点灯させてください。ただし、オートライトを頻繁に使用すると電池寿命が短くなりますのでご注意ください。
- 時計を傾けたとき、ライトの点灯が一瞬遅れることがありますますが異常ではありません。
- ライト点灯後、時計を傾けたままにしても、点灯は約 1.5 秒間または約 3 秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕をあげたりしても点灯することがあります。**オートライトを使用しないときは必ず OFF** にしておいてください。
 - 時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトを OFF にしてご使用ください。
- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、点灯しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けてみてください。なお、それでも点灯しにくいときは、腕を下からふりあげてみると点灯しやすくなります。

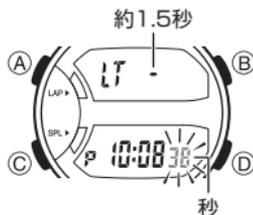
■ ライト点灯時間の切替え

1. セット状態にする

時刻モードのとき

(A) ボタンを約 1 秒間押し続けます

→秒が点滅します。



2. 点灯時間を選ぶ

(B) ボタンを押します

→(B) ボタンを押すごとに約 1.5 秒間と約 3 秒間が切り替わります。

- = 約 1.5 秒間
- ≡ = 約 3 秒間



3. セットを終わる

(A) ボタンを押します

→点滅が止まり、セット完了です。

- 点滅表示のまま 2 ~ 3 分間すると、自動的に点滅が止まります。

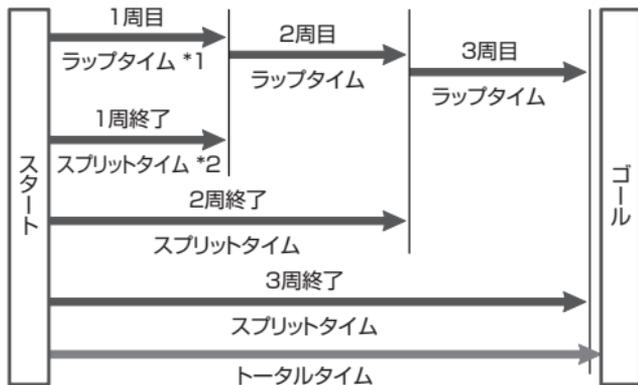


ストップウォッチの使い方

6 ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
◎ ボタンを押し、ストップウォッチモードにします。

本機のストップウォッチは、「ラップタイム」、「スプリットタイム」、「トータルタイム」の計測が行えます。

- 1/100 秒単位で 99 時間 59 分 59 秒 99 (100 時間計) まで計測できます。
 - 計測範囲を超えると、自動的に 0 に戻って計測し続けます。



*1 ラップタイムとは、任意の区間 (例えば、周回競技の 1 周) に要する時間を指します。

*2 スプリットタイムとは、スタートから任意の地点 (例えば、周回競技の 2 周目終了地点) までに要する時間を指します。

<計測結果の記憶について>

ストップウォッチモードでの計測結果は、スタート操作からストップ操作までを一つのレコードとして、最大 60 個まで本機へ記録されます。その際、計測を行った月・日・曜日がレコードタイトルとして一緒に記録されます。記録データは、リコールモード (17 ページ参照) で見ることができます。

●表示切替え

ラップタイム計測かスプリットタイム計測かによって、表示される内容が違います。

<ラップタイム計測>

上部：ラップタイム
下部：経過時間

<スプリットタイム計測>

上部：ラップタイム
下部：経過時間 (スプリットタイムが記録されると 8 秒間、スプリットタイムが表示される)

なお、計測開始後に切り替えることはできません。計測を始める前に切り替えてください。

ストップウォッチモード（計測リセット状態）のとき

① ボタンを押します

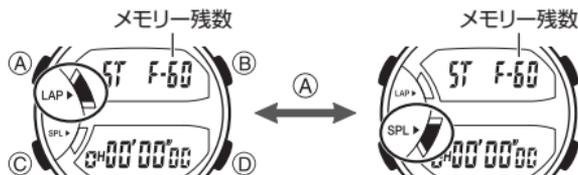
⇒ 下記のように、表示が切り替わります。

<ラップタイム計測>

「LAP」が点灯します。

<スプリットタイム計測>

「SPL」が点灯します。



■ 計測のしかた

ストップウォッチモードのとき

② ボタンを押します

⇒ ② ボタンを押すごとに、計測がスタート/ストップします。

ストップウォッチの操作を開始すると、分、秒、1/100秒を示します。ストップウォッチ計測時間が60分を超えると、時、分、秒表示に変更します。



ストップウォッチの操作開始時には、分、秒、1/100秒を示します。ストップウォッチ計測時間が10時間を超えると、時、分、秒表示に変更します。

計測終了後 ① ボタンを押すと、計測値が0に戻ります（リセット）。

●通常計測

通常計測は、ラップタイム計測でもスプリットタイム計測でも行えます。



スタート



ストップ



リセット



<積算計測>

ストップ後リセットせずに ④ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

- ストップウオッチモードで計測したタイムは自動的に記憶され、そのデータはリコールモード（17 ページ参照）で確認できます。

●ラップタイム／スプリットタイムの計測

〈ラップタイム計測表示〉



スタート

Ⓓ

ラップタイム

Ⓐ



ラップタイム表示

ラップタイム

Ⓐ

ストップ

Ⓓ

リセット

Ⓐ



ラップタイム表示

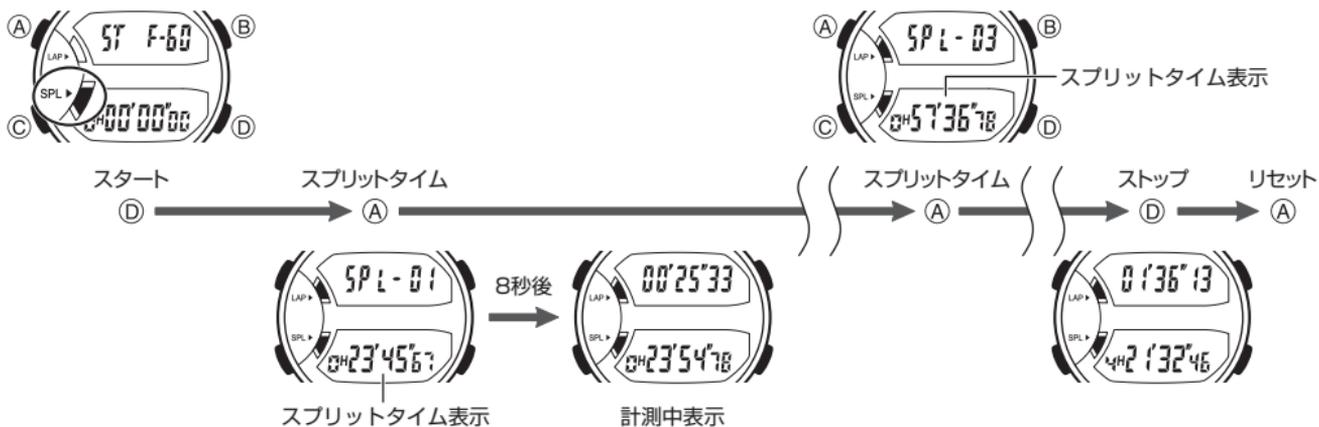
8秒後



計測中表示



〈スプリットタイム計測表示〉



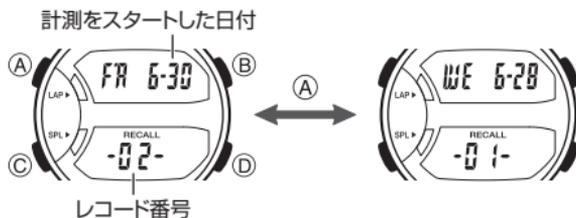
- ストップウォッチモードで計測したタイムは自動的に記憶され、そのデータはリコールモード（17ページ参照）で確認できます。

リコールモードについて

ストップウォッチモードで計測／記憶したデータを確認するモードです。ストップウォッチモードでの計測結果は、スタート操作からストップ操作までを一つのレコードとして、最大 60 個まで本機へ記録されています。

<最新の計測結果>

<1つ前の計測結果>



- メモリーの残量が無くなると、ストップウォッチモードで計測を行うごとに、一番古い計測結果が自動的に消去されて、計測中の最新の計測結果が記憶されます。

6 ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
◎ ボタンを押し、リコールモードにします。

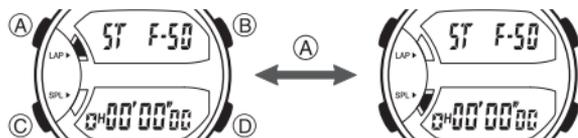
保存されているレコードの確認

- ストップウォッチモード（計測リセット状態）のとき、確認するレコードに対応した表示（ラップタイムまたはスプリットタイム）を選びます

⇒◎ ボタンを押すごとに、表示が切り替わります。

<ラップタイム>

<スプリットタイム>



- ストップウォッチモードでラップタイムとして記録した内容をスプリットタイムとして保存し直す場合は、ここでスプリットタイム表示を選びます。

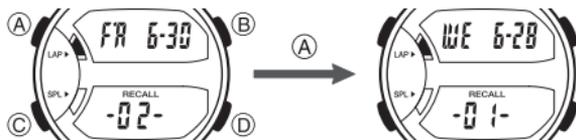
- ◎ ボタンを押します

<例：ラップタイム表示>

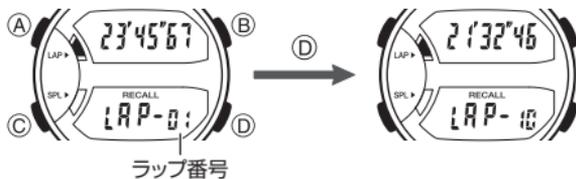
⇒リコールモードになります。



3. ① ボタンを押して、確認したいレコードを選びます



4. ② ボタンを押して、レコード内の記録データを選びます

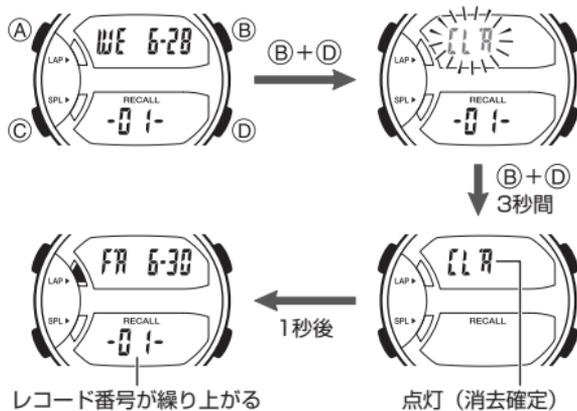


■ レコードの消去

1. リコールモードのとき、消去したいレコードを表示させます



2. ③ と ④ ボタンを押して、「CLR」の表示が点滅から点灯に変わるまで待ちます



- レコードが消去されると、消去されたレコードより後ろに記録されているレコード番号は一つずつ繰り上がります。
例：レコード番号 02 を消去すると…レコード 03 → 02

タイマーの使い方

6 ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
◎ ボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマー時間は分単位で 24 時間までセットすることができます。セットした時間を経過（タイムアップ）すると、10 秒間電子音が鳴ります。
また、タイムアップ後も自動的に計測を繰り返すオートリピートタイマーとしても使えます。

■ タイマー方法について

本機のタイマーは以下の 2 種類があり、使い方に合わせてお好きな方を選ぶことができます。

● リピートタイマー（繰り返し計測）

タイムアップすると、タイマー時間を表示して、計測が止まります。同じ時間を何回も計測するときに便利です。

● オートリピートタイマー（自動繰り返し計測）

タイムアップしても、計測ストップするまで自動的にタイマー時間に戻り、繰り返し計測を行います。

■ タイマー時間のセット

1. セット状態にする

タイマーモード（計測リセット状態）のとき

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押し
続けます

→ 「時」 が点滅します。

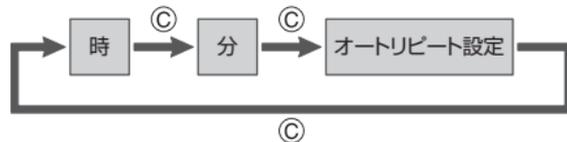


2. セット箇所を選ぶ

◎ ボタンを押します

→ ◎ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で切り替わります。

- 点滅箇所がセットできません。

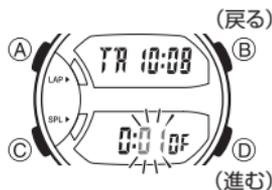


3. 点滅箇所をセットする

① または ② ボタンを押します

→ ① ボタンを押すごとに1つずつ進み、② ボタンを押すごとに1つずつ戻ります。

● ①・② ボタンとも押し続けると早送りができます。



手順 2. ~ 3. の操作を繰り返して、時・分およびオートリピート設定をセットします。

- セット時間を 24 時間に設定するとき、表示を "0:00" にします。
- オートリピート設定は ④ ボタンを押すごとにリピート (OF) とオートリピート (On) が切り替わります。オートリピートを設定したときは、タイマーモードで "🔄" が点灯します。

4. セットを終わる

③ ボタンを押します

→ 点滅が止まり、セット完了です。

- 点滅表示のまま 2 ~ 3 分間すると、自動的に点滅が止まります。



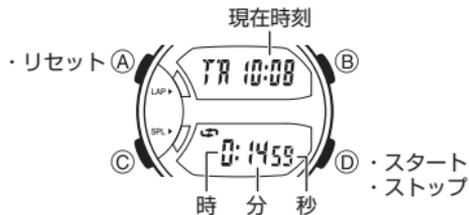
■ タイマーの使い方

タイマーモードのとき

④ ボタンを押します

→ ④ ボタンを押すごとに、計測がスタート/ストップします。

- 1 秒単位で計測を行います。



- 計測ストップ後 ① ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります (リセット)。
- ④ ボタンでストップ後、もう一度 ④ ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。

● タイムアップになると

セットした時間を経過すると、10 秒間電子音が鳴り、タイムアップを知らせます。

● 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

アラーム・時報の使い方

6 ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
◎ ボタンを押し、アラームモードにします。

■ アラーム・時報について

● 通常アラーム (アラーム 1 ~ アラーム 3)

設定した時刻になると約 10 秒間の電子音が鳴ります。

● スヌーズアラーム (アラーム 1 のみ)

スヌーズ機能をオンにすると、設定した時刻に約 10 秒間の電子音が鳴り、5 分おきに合計 7 回報音を繰り返します。なお、ボタンを押して音を止めても再び鳴り出します。

- 基本時刻のセット中にスヌーズアラーム時刻と一致した場合は、1 回のみ報音を行います。

● 時報

毎正時 (00 分のとき) に“ピッピッ”と電子音が鳴ります。

■ アラーム時刻のセット

1. アラームを選ぶ

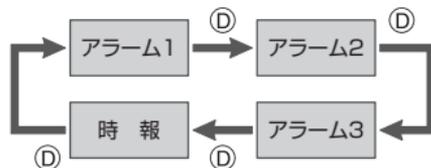
アラームモードのとき

◎ ボタンを押します

→ ◎ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わりますので、セットしたいアラームを選びます。



アラーム番号

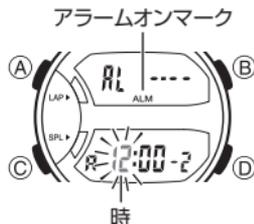


2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押し続けます

→ 「時」 が点滅します。

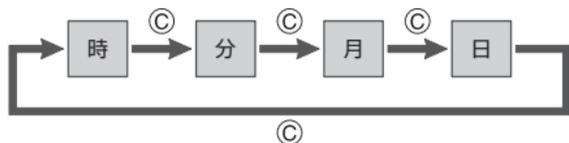
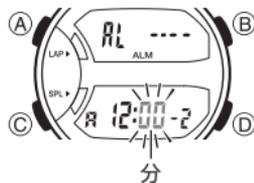
- アラームオンマーク“ALM”が点灯し、自動的にアラームオンになります。
- アラーム 1 がスヌーズアラーム ON のときにセット操作を行うと、スヌーズ機能は OFF になります。



3. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

- Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で切り替わります。
- 点滅箇所がセットできます。



4. 点滅箇所をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

- Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに 1 つずつ戻ります。
- Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。
 - 「月」をセットしないときは“-”を、「日」をセットしないときは“- -”を表示させます。



手順 3. ~ 4. の操作を繰り返して、時・分、月・日をセットします。

- 「時」のセットのとき午前 (A) / 午後 (P)、または 24 時間制にご注意ください。
- 時刻モードの現在時刻を 24 時間制表示にしているときは、アラーム時刻も 24 時間制表示になります。
- 「時・分」に加えて、「月・日」をセットすることにより、以下のようにアラームを鳴らすタイミングが選べます。

毎日鳴らす：「時・分」のみセット
指定月に毎日鳴らす：「月・時・分」のみセット
毎月同じ日に鳴らす：「日・時・分」のみセット
指定月日に鳴らす：「月・日・時・分」全てセット

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

⇒点滅が止まり、セット完了です。

- 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



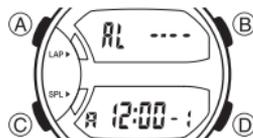
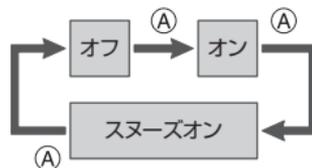
■ アラーム・時報のON/OFF設定

アラームモードで Ⓓ ボタンを押して、設定したいアラームまたは時報を選びます。

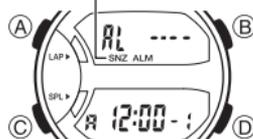
Ⓐ ボタンを押します

⇒ Ⓐ ボタンを押すごとに、以下のようにアラームまたは時報のオンとオフが切り替わります。

• アラーム 1



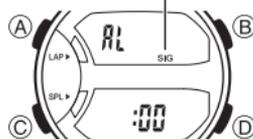
スヌーズオンマーク



• アラーム 2 / 3 / 時報



時報オンマーク



●モニターアラーム

アラームモードで ⑩ ボタンを押し続けると、押ししている間アラーム音が鳴ります。

●鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

●スヌーズアラームのときは

- スヌーズアラームのときは、約 5 分後に再び鳴り出します。(スヌーズ中は“SNZ” が点滅します)
- スヌーズアラームのときに以下の操作を行いますと、スヌーズアラームが中断されます。
 - アラーム 1 を「アラーム・時報の ON / OFF 設定」にしたがいオフにしたり、通常のアラームに切り替えたとき。
 - アラームモードでアラーム 1 をセット状態にしたとき。
 - 時刻モードで時刻セット状態にしたとき。

デュアルタイムの使い方

6 ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい
◎ ボタンを押し、デュアルタイムモードにします。

デュアルタイムとは、時刻モードの現在時刻とは別に海外時刻などもう 1 つの時刻をセットできる機能です。

- デュアルタイムの「秒」は現在時刻の「秒」に連動しています。
- 現在時刻を 24 時間制にしているときは、デュアルタイムも自動的に 24 時間制で表示されます。

■ デュアルタイムのセット

1. セット状態にする

デュアルタイムモードのとき

◎ ボタンを約 1 秒間押し
続けます

→ サマータイム設定となり、
DST マークと On または
OF が点滅します。

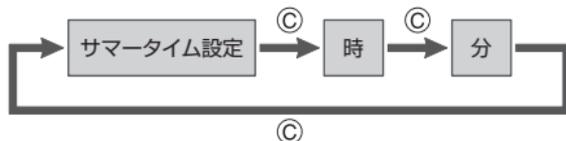


2. セット箇所を選ぶ

◎ ボタンを押します

→ ◎ ボタンを押すごとに点
滅箇所が以下の順で切り
替わります。

- 点滅箇所がセットできま
す。

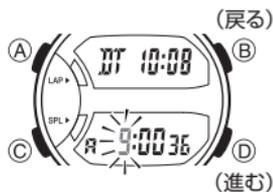


3. 点滅箇所をセットする

④ または ③ ボタンを押します

→ ④ ボタンを押すごとに1つずつ進み、③ ボタンを押すごとに1つずつ戻ります。

- ④・③ ボタンとも押し続けると早送りができます。



手順 2. ~ 3. の操作を繰り返して、サマータイム設定および時・分をセットします。

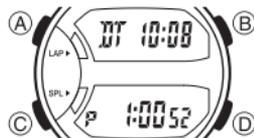
- 「時」のセットのとき午前 (A) / 午後 (P)、または 24 時間制にご注意ください。
- サマータイム設定は、④ ボタンを押すごとに On (オン) と OF (オフ) が切り替わります。On のときはデュアルタイムモードで DST マークが点灯します。

4. セットを終わる

① ボタンを押します

→ 点滅が止まり、セット完了です。

- 点滅表示のまま 2 ~ 3 分間すると、自動的に点滅が止まります。



●サマータイム (DST) について

サマータイムとは DST (Daylight Saving Time) とも言い、通常の時刻から 1 時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

時刻・日付の合わせ方

以下の操作は時刻モードで行います。

電池交換後などで、時刻や日付が合っていないときは、以下の方法でセットします。

- デジタル部の時刻を修正したときは、必ずアナログ部も修正してください。

■ デジタル部の合わせ方

● 秒合わせ

月に1度くらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

(A) ボタンを約1秒間押し続けます

⇒「秒」が点滅します。



秒

2. 秒を合わせる

(D) ボタンを押します

⇒「00秒」からスタートします。

- 秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります(時報は「時報サービス117番」が便利です)。



00秒になる

3. セットを終わる

(A) ボタンを押します

⇒点滅が止まり、セット完了です。

- 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



●時刻・日付の合わせ方

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約1秒間押し続けます

→「秒」が点滅します。

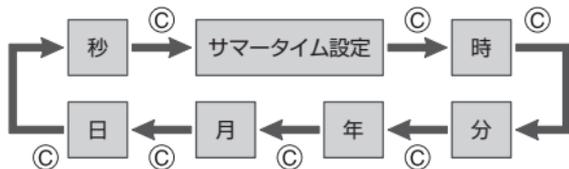


2. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

→ Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で切り替わります。

- 点滅箇所がセットできます。



3. 点滅箇所をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

→ Ⓓ ボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに1つずつ戻ります。

- Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。



手順2.～3.の操作を繰り返して、サマータイム設定および時・分・年・月・日をセットします。

- 「時」のセットのとき午前 (A) / 午後 (P)、または24時間制にご注意ください。
- 「年」は2000～2099年の範囲内でセットでき、年・月・日をセットすると、自動的に曜日算出されます。
- カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外の修正は不要です。
- サマータイム設定は、Ⓓ ボタンを押すごとに On (オン) と OF (オフ) が切り替わります。On のときは時刻モード、アラームモード、ハンドセットモードで DST マークが点灯します。

4. セットを終わる

① ボタンを押します

→点滅が止まり、セット完了です。

- 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



●サマータイム (DST) について

サマータイムとは DST (Daylight Saving Time) とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

●12 / 24 時間制表示切替え

時刻モードのとき

① ボタンを押します

→① ボタンを押すごとに、12時間制表示 (A/P) と24時間制表示が切り替わります。



■ アナログ（針）部の合わせ方

アナログ部とデジタル部の時刻が合っていないときは、以下の操作で合わせてください。

- 6 ページの「操作のしくみと表示の見方」にしたがい ③ ボタンを押して、ハンドセット（針合わせ）モードに入ります。

1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

① ボタンを約 1 秒間押し続けます

→ 現在時刻が点滅して、セット状態になります。



2. アナログ部を合わせる

② ボタンを押します

→ ② ボタンを押すごとに時計回りに 1/3 分 (20 秒) ずつ進みますので、デジタル部の「時・分」丁度にアナログ針を合わせます。

- 押し続けると早く進みます（針は逆方向には進みません）。



3. セットを終わる

③ ボタンを押します

- 点滅が止まり、分針はそのときの「秒」に合わせて自動的に修正されます。
- 点滅表示のまま 2～3 分間すると、自動的に点滅が止まります。
- 操作のタイミングにより、針が少し遅れることがあります。このようなときは、もう一度セット状態にしてから針を 1 ステップか 2 ステップ進めてください。



● 針の自動早送り

④ ボタンを押し続けている間（早送り中）、② ボタンを押すと、ボタンを離しても針が自動的に早く進みます。

- いずれかのボタンを押すと針が止まります。
- 時計が一回りすると早送りが止まります。
- 針の早送り中にアラームなどが鳴り出すと針が停止します。

製品仕様

- 精度：平均月差± 30 秒
- 基本機能：<アナログ部>
時・分 (20 秒運針) 2 針
<デジタル部>
時・分・秒、午前 (A) / 午後 (P) /
24 時間制表示、月・日・曜日、フルオー
トカレンダー (2000 ~ 2099 年)
- ストップウォッチ：計測単位
機能 ラップタイム計測
1/100 秒 (0 から 59 分 59 秒
99 まで)、
1 秒 (1 時間から 99 時間 59 分
59 秒まで)
スプリットタイム計測
1/100 秒 (0 から 9 時間 59 分
59 秒 99 まで)、
1 秒 (10 時間から 99 時間 59 分
59 秒まで)
計測範囲 99 時間 59 分 59 秒 99
(100 時間計)
計測機能 通常計測、積算計測、ラッ
プ計測、スプリット計測

- リコール機能：ストップウォッチ機能での計測値の
記憶 / 表示
・ラップタイムデータ
：ラップ番号、計測値
・スプリットタイムデータ
：スプリット番号、計測値
・データ数
：ラップタイムデータとスプリット
タイムデータで合計 60 本
・ログデータ見出し表示
：計測を開始した月、日、曜日
(最大 60 データまで)

- タイマー機能：セット単位 1 分
計測単位 1 秒
計測範囲 24 時間
リピートタイマー / オートリピートタ
イマー切替え

- デュアルタイム：表示内容 時・分・秒
機能 セット単位 1 分

- アラーム機能：時刻アラーム
本数 3本
セット単位 月・日・時・分
電子音 10秒間
通常アラーム/スヌーズアラーム
• スヌーズアラームはアラーム1のみ切替え可。
- 時報
毎正時に電子音で報知
- その他の：自動復帰機能、サマータイム設定機能、モニターアラーム、12/24時間制表示切替え、操作確認音 ON/OFF切替え、LEDライト、オートライト、ライト点灯時間切替え
- 使用電池：CR1220×1個（電池別途販売）
- 電池寿命：約3年
（電子音10秒間/日、ライト1.5秒間/日使用した場合）
• ライトを頻繁に使用すると、電池の持続時間が短くなります。

改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

memo



memo



ご使用上の注意

■ 防水性

- 防水時計は時計の表面または裏ぶたに「WATER RESIST」または「WATER RESISTANT」と表示されているもので、次のように分類されます。

表示	時計の表面または裏ぶたに表記	日常生活用防水	日常生活用強化防水		
		「BAR」表記無し	5気圧防水	10気圧防水	20気圧防水
使用例	洗顔、雨	○	○	○	○
	水仕事、水泳	×	○	○	○
	ウインドサーフィン	×	×	○	○
	スキンドайビング(素潜り)	×	×	○	○

- 専門的な潜水=スキューバダイビング(空気ボンベ使用)でのご使用はお避けください。
- 時計の表面または裏ぶたに「WATER RESIST」または「WATER RESISTANT」と表示されていないものは防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発生する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
- 防水構造の機種でも、以下のご使用はお避けください。
防水性能の低下や、ガラスの内側が曇る原因になります。
 - 「水中で」および「時計に水分がついた状態で」りゅうずボタンを操作すること
 - 入浴のときに使用すること
 - 温水プールやサウナなどの高温多湿な環境で使用すること
 - 時計を手につけたまま手洗い/洗顔/家事などをするとともに、石鹸や洗剤を使うこと

- 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れを拭き取ってください。
- 防水性を保つために定期的(2~3年を目安)なパッキン交換をおすすめします。
- 電池交換の際、防水検査を行いますので、必ず「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください(特殊な工具を必要とします)。
- 防水時計の一部にデザイン上、皮革バンドを使用しているモデルがありますが、皮革バンド付の状態では、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。
- 時計が急冷された場合など、ガラスの内側が曇ることがありますが、すぐに曇りが無くなるようであれば特に問題はありません。夏季に高温の室外から室内に入りエアコンの吹き出し口付近で冷気にさらされたり、冬季に暖かい室内から出て屋外の冷気や雪に触れた場合など、外気と時計内部の温度差が大きくなることによって曇る時間が長くなることがあります。なお、曇りが消えなかったり、時計内部に水が残っている場合は、ただちにご使用をやめて、修理を「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください。

■ バンド

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
- バンドは、劣化やさびなどにより、切れたり外れたりすること、接合部のピンが飛び出したり抜け落ちたりすることがあります。これらは、時計の落下や紛失、けがの原因となります。バンドは常にお手入れをして清潔な状態でご使用ください。

- バンドに弾力性がなくなる、ひび割れ、変色、緩み、接合部のピンの飛び出しや抜け落ちなどの異常がある場合は、ご使用をやめてください。点検・修理（有償）や新しいバンドとの交換を、「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください。

■ 温度

- 自動車のダッシュボードや暖房器具の近く等の高温になる場所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったり、故障の原因となります。
- + 60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。液晶表示は、0℃以下や + 40℃以上では、表示が見えにくくなることがあります。

■ ショック

- 通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。ただし、耐衝撃構造の時計の場合（G-SHOCK/BABY-G/G-ms）は腕につけたままでチェーンソーなどの強い振動や、激しいスポーツ（モトクロスなど）でのショックを受けても時計には影響ありません。

■ 磁気

- アナログ時計やコンビネーション（アナログとデジタル）時計は、針を動かすために磁石の性質を利用したモーターを駆動させる方式を採用していますが、このモーターは強い磁気（オーディオ機器のスピーカー、磁気ネックレス、携帯電話など）を発生する器具に近づけるとモーターの回転に影響を受け、針の「遅れ・進み・止まり・誤った時刻表示」などの原因となります。
- 極度に強い磁気（医療機器など）は誤動作や電子部品を破損する恐れがありますのでお避けください。

■ 静電気

- 静電気により誤った時刻を表示したりします。また、極度に強い静電気は、電子部品を破損する恐れがあります。
- 静電気により、一時的に液晶の点灯していない部分ににじみ現象が発生することがあります。

■ 薬品類

- シンナー、ガソリン、各種溶剤、油脂またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類等が付着すると、樹脂ケース、樹脂バンド、皮革などに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

■ 保管

- 長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などを拭き取り、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■ 樹脂部品について

- 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が樹脂部品に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分を拭き取り、他の製品に密着させたままにしないでください。
- 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま放置すると色あせする場合があります。
- 塗装部品は、使用状況（過度の外力、連続したこすれ、衝撃等）により磨耗し色落ちしたりすることがあります。
- バンドにプリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。
- 蛍光商品は、長時間濡れたままにしておくとも色が落ちる恐れがありますので、濡れているときはすぐに水分を拭き取って、乾かしてください。
- スケルトン（透明）仕様の部品は、汗や汚れ等の吸収や高温多湿への放置により変色を起こすことがあります。
- ご使用状態や保管環境により異なりますが、日々のご使用や長期保管によって劣化し、切れたり、折れたりすることがあります。

■ 皮革バンドについて

- 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が皮革バンドに移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに柔らかい布などで軽く拭いて、他の製品に密着させたままにしないでください。

- 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま長時間放置すると色あせする場合があります。
ご注意：皮革バンドは、摩擦・汚れにより色を移したり、色落ちすることがあります。

■ 金属部品について

- 金属は、ステンレスやメッキ品でも汚れたままご使用になりますと、さびが発生することがあります。汗をかいたときや水に濡らしたときは、柔らかい吸湿性の良い布などでよく拭き取った後に、通気性の良い場所に保管し、よく乾燥させてください。
- とときどき、柔らかい歯ブラシに中性洗剤を水で薄めた液や石鹸水をつけて、こすり洗いをしてください。その後、洗剤成分を水でよく洗い流し、柔らかい吸湿性の良い布などで水分を拭き取ってください。なお、洗うときは「調理用ラップを巻く」などして、時計本体に洗剤や石鹸水がかからないようにしてください。

■ 抗菌防臭バンドについて

- 抗菌防臭バンドは汗などによる細菌の増殖を抑え、においの発生を防ぎ、常に清潔で快適な装着感が得られます。抗菌・防臭の効果を上げるために、バンドの汚れ、汗、水分等は吸湿性の良い柔らかい布で拭き取り、常に清潔にしてご使用ください。抗菌防臭バンドは微生物や細菌の増殖を抑えるためのもので、アレルギー等による皮膚のかぶれ等を抑えるものではありません。

■ 液晶表示について

- 液晶表示は、見る方向によって表示が見えにくくなる場合があります。

■ データ保護について

- 電池切れや電池交換および故障修理の場合、データ内容はすべて消えてしまいますのでご了承ください。また、故障・修理・電池交換等に起因するデータの消失による損害および逸失利益等につきましては、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。なお、大切なデータはノートなどに控えをとっておいてください。

万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

お手入れについて

■ お手入れのしかた

時計も衣類同様、直接身につけるものです。長くお使いいただくために、汚れ・汗・水分などは柔らかい布などでこまめに拭き取り、常に清潔な状態でご使用ください。

- 海水や泥がついた場合は、真水でよく洗い流してください。
- 金属バンドおよび樹脂バンドの金属部品は、柔らかい歯ブラシに中性洗剤を水で薄めた液や石鹸水をつけて、こすり洗いをしてください。その後、洗剤成分を水でよく洗い流し、柔らかい吸湿性の良い布などで水分を拭き取ってください。なお、洗うときは「調理用ラップを巻く」などして、時計本体に洗剤や石鹸水がかからないようにしてください。
- 樹脂バンドは、水で洗い、柔らかい布などで水分を拭き取ってください。また、樹脂バンドの表面にシミのような模様が発生することがありますが、人体および衣類への影響はありません。布などで拭き取ってください。
- 皮革バンドは、水や汗がついた場合には、柔らかい布などで軽く拭いてください。
- りゅうすやボタンや回転ベゼルは、長期間操作しないと動きが悪くなる場合があります。ときどき、りゅうすや回転ベゼルの回したり、ボタンを押ししたりしてください。

■ お手入れを怠ると

〈さび〉

- 時計で使用している金属はさびにくい性質ですが、汚れによりさびが発生します。
 - 汚れにより酸素が絶たれると、表面の酸化皮膜が維持できなくなり、さびが発生します。
- さびが発生すると、金属部分に鋭利な箇所ができたり、接合部のピンが飛び出したり抜け落ちたりすることがあります。異常に気がついた場合は、ご使用をやめて、修理（有償）を「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください。
- 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやさびがしみ出して、衣類の袖を汚したり、皮膚がかぶれたり、時計の性能が劣化することがあります。

〈劣化〉

- 樹脂バンドや樹脂ベゼルは、汗などの水分で濡れたままにしていたり、湿気の多い場所に放置すると経年劣化し、切れたり、折れたりすることがあります。

〈かぶれ〉

- 皮膚の弱い方や体調により、かぶれたりすることがあります。特に、皮革バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをしてください。万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

電池交換について

- 電池交換は必ず「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください。
- 電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。
- 電池交換の際、防水検査を行います。
- 樹脂（外装）部品は日々のご使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。電池交換ご依頼品の樹脂部分にひびなどの異常がある場合、破損の恐れがありますので作業を行わずにご返却する旨のご案内をさせていただいております。あらかじめご了承ください。

■ 最初の電池

- お買い上げの時計に組み込まれている電池（モニター用電池）は、工場出荷時点で時計の機能や性能をチェックするために組み込まれたものです。
- お客様がお買い上げになるまでの期間に電池は消耗しますので、モニター用電池は取扱説明書などに記載されている電池寿命に満たない場合があります。また、電池交換は保証期間内でも有料となります。

■ 電池の消耗

- 電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。
- 消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

金属バンドの駒詰めについて

金属バンド（フリータイプの中留構造バンド※を除く）の駒詰めには専用の工具が必要となります。お取り扱いによる、部品の変形や破損、またはけが等を予防するためにも、お買い上げの販売店にご相談ください。なお、「持込修理サービス受付窓口」においても保証期間内は無償、保証期間経過後は有償にて承っております。詳しくは、「持込修理サービス受付窓口」または「修理に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

※ 中留をスライドさせて長さ調整するフリータイプのバンドでは、駒の取り外しはできません。

（例）

